

市民にとっての愛知目標

－アンケート調査の報告②

1 調査の概要

- ▶ 生物多様性保全に関する
 - ・ 「意識」を尋ねる9問（スクリーニング項目）
 - ・ 「活動」を尋ねる18問（本項目）
- ▶ 予備調査（2月15, 16日@にじゅうまるCOP1）
 - ・ 参加者に配布、29名から回答（本項目）
- ▶ 本調査（3月@楽天リサーチ）
 - ・ スクリーニング項目： 30,064名
 - ・ 本項目： 300名

2 分析の概要

- ▶ 本報告では「本項目」のうち、
 - ① 「Q10 活動の中で、取り組むべき課題だと感じること」
 - ② 「Q11 活動の中で、難しさを感じること」
 - ③ 「Q12 UNDB市民ネットの活動に期待すること」

の分析結果を報告

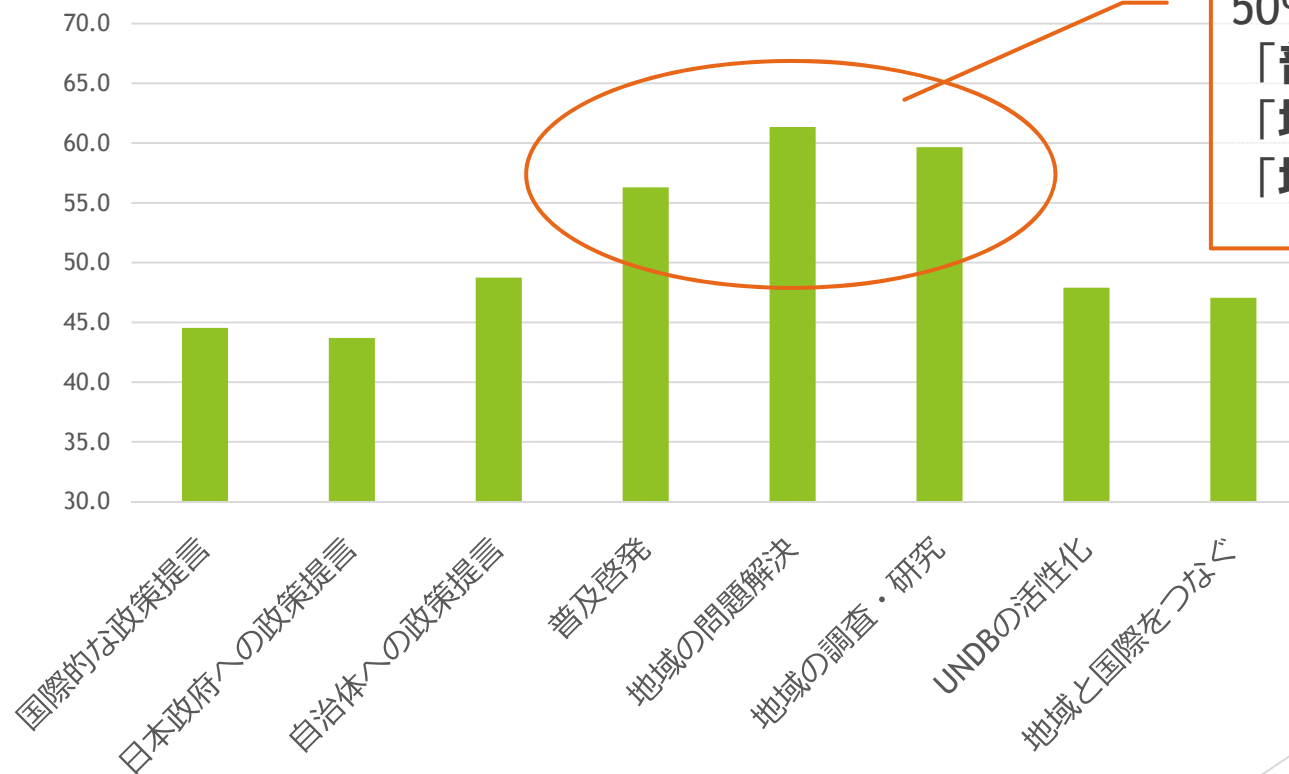
- ▶ 特に、“NGO/NPO等で継続的な活動をしている”もの、119名の回答を対象
- ▶ UNDB市民ネットの“潜在的なパートナー”になりうるものは、どのような目標、困難、期待をもっているのか？

2' 分析の概要

		生物多様性保全に関する	
		意識：9問（SC項目）	活動：18問（本項目）
COP-1 @にじゅうまる 予備調査			NGO関係者：25名 /29名
	@楽天リサーチ 本調査	30,064名	NGO関係者：94名 /300名

3 分析①

「Q10 あなたご自身の活動の中で、取り組むべき課題だと感じることにについてお伺いします。」

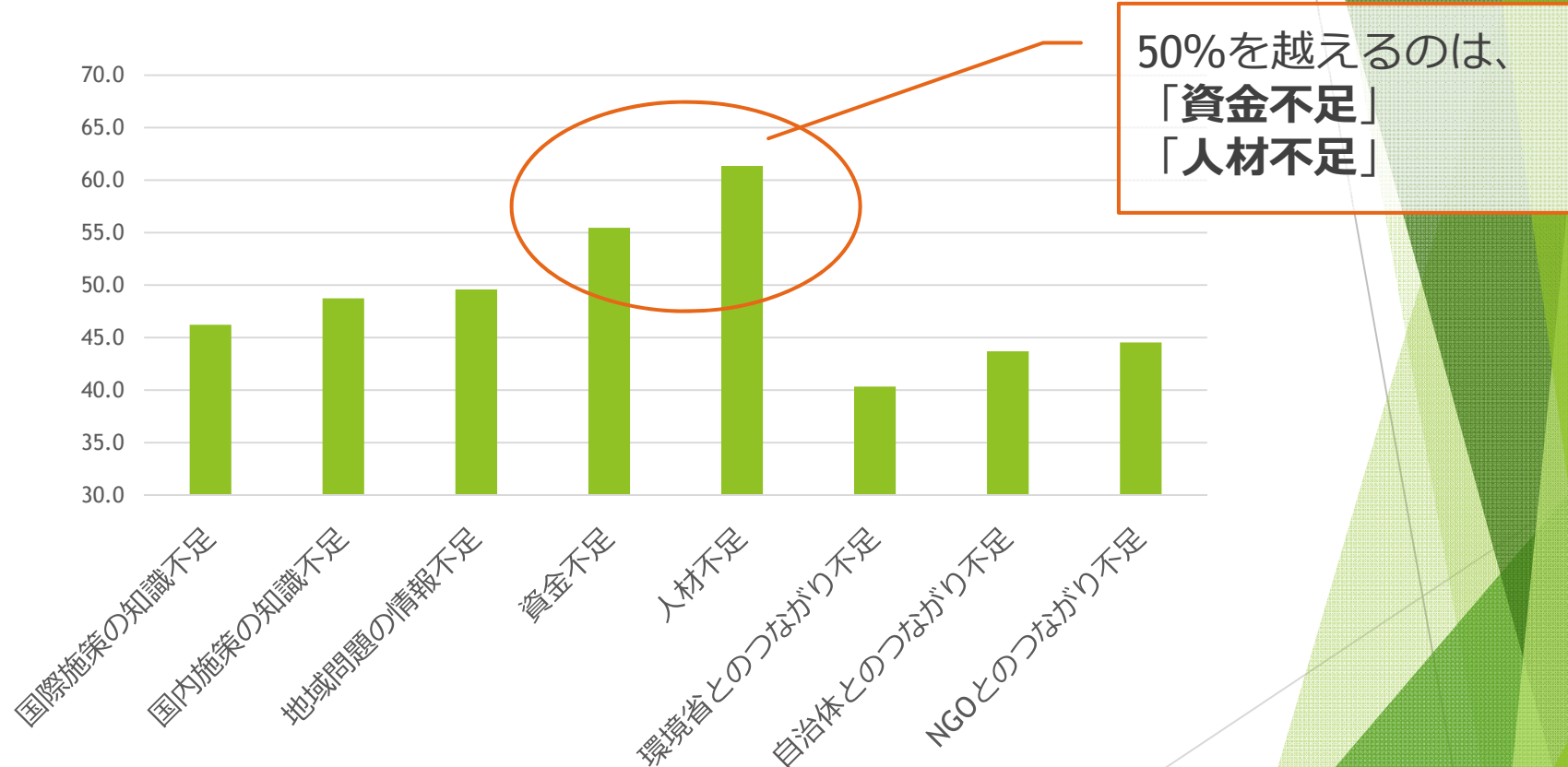


50%を越えるのは、
「普及啓発」
「地域の問題解決」
「地域の調査・研究」

※ 「しばしば感じる」 or 「いつも感じる」と回答したものの割合 (%)

3 分析②

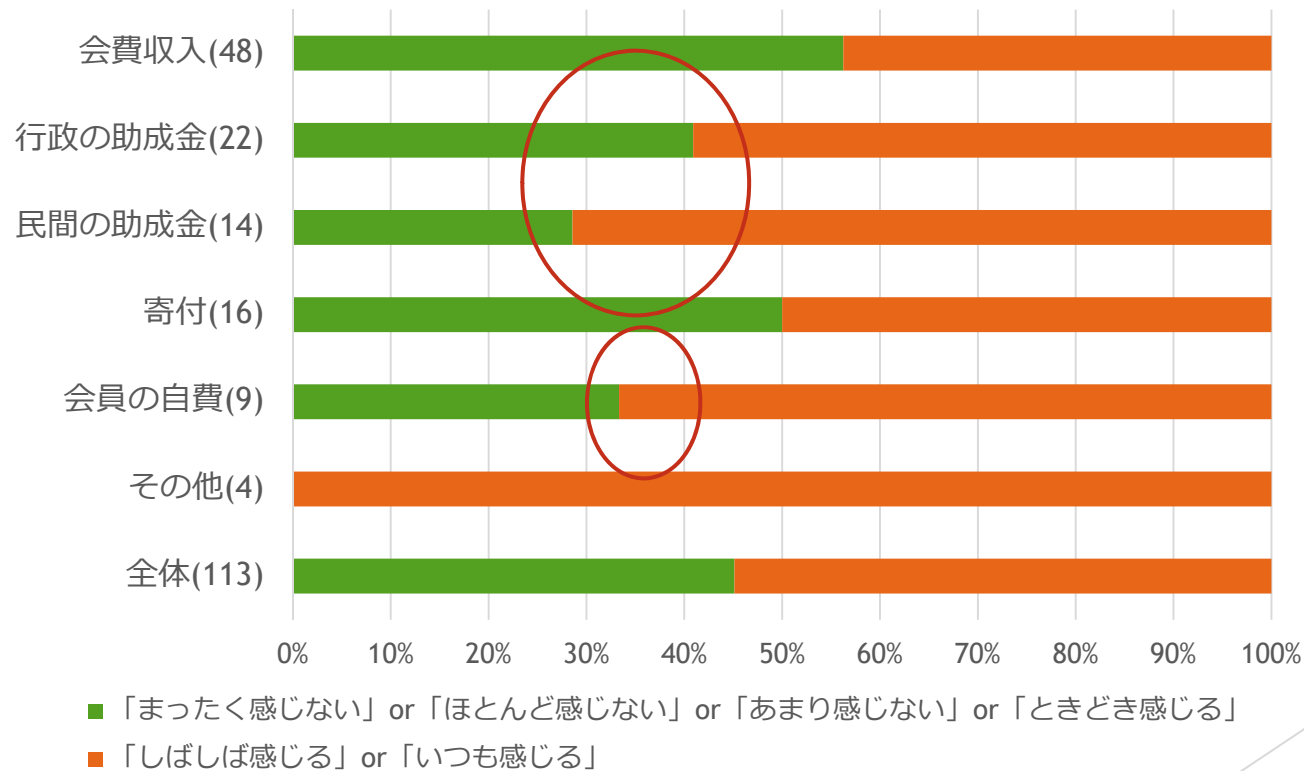
「Q11 あなたご自身の活動の中で、難しさを感じる
ることについてお伺いします。」



※ 「しばしば感じる」 or 「いつも感じる」と回答したものの割合 (%)

3 分析②'

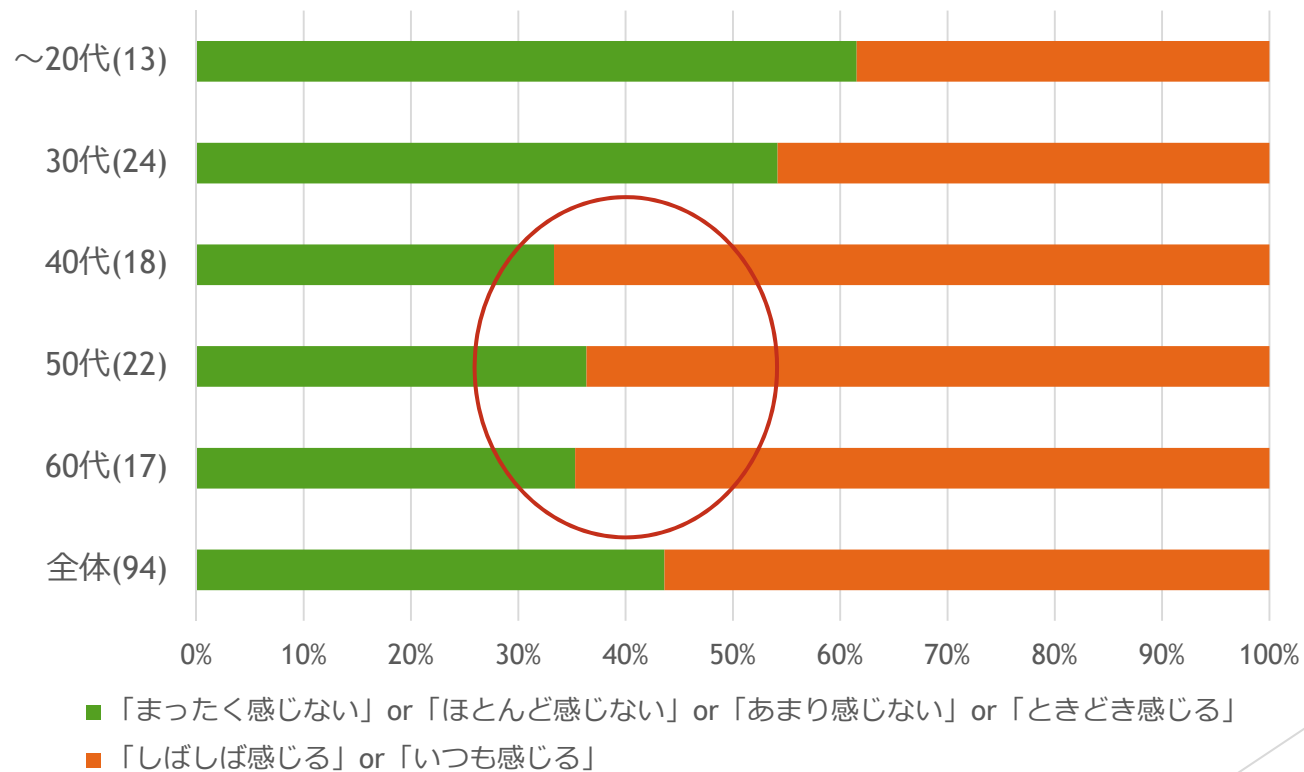
“資金不足”を抱えるNGOとは？ 「最大の資金源」別の“資金不足”



「民間の助成金」
「会員の自費」
を資金源とする
NGOでは、
その6割以上が、
“資金不足”
を抱えている

3 分析②“

“人材不足”を抱えるNGOとは？ 「運営メンバー平均年齢層」別の“人材不足”

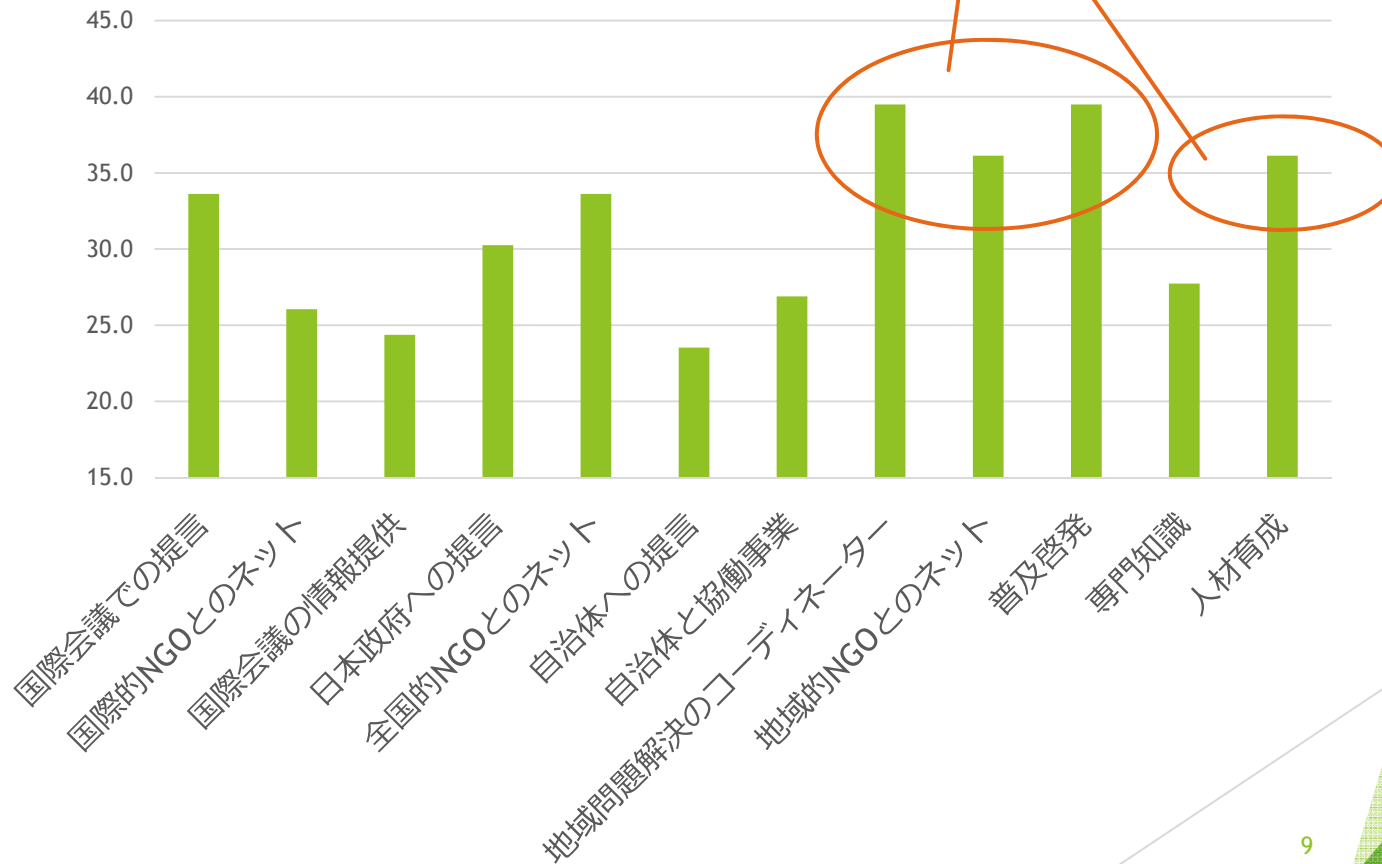


「運営メンバーが40代を越えるNGO」では、その6割以上が、“人材不足”を抱えている
→ 世代交代の困難？

3 分析③

Q12 UNDB市民ネットの活動に期待すること
で、とくに重要だと思うものを選んでください

35%を越えるのは、
「地域問題解決のコーディネーター」
「地域的NGOとのネット」
「普及啓発」
「人材育成」



3 分析③

「Q12 UNDB市民ネットの活動に期待すること」 の自由記述欄

- ▶ **【普及啓発関連】**：「個人の認識度をあげること」「個人の価値観の昇華」「理念の普及施策の実施」
- ▶ **【教育関連】**：「義務教育に取り入れる」「食育との連携」「理科の教科書と授業を、より現場で現実を見て、より生命への興味を引き、より問題解決の実践に繋がるものに変えていくこと」
- ▶ **【制度関連】**：「縦割り行政の歪み」「地域活動バックアップ、地域との組織づくり分担」
- ▶ **【運動関連】**：「継続すること」「市民団体が国際会議に参加するノウハウの供与」「専門家集団のNGOだけではなく、ネットワーキングなど全体マネジのできる機関の存在が不可欠。NGOもレベルアップを期待したい」「各市民団体への支援措置の構築」

4 まとめ

▶ **“普及啓発”と“地域問題解決”**の重要性

両者は、半数以上が考える「取り組むべき課題」であり、35%以上が「期待するUNDB市民ネットの活動」でもある。

▶ 一方で、“**資金不足**”と“**人材不足**”という困難

特に、6割以上のNGO関係者が“人材不足”を抱えており、「UNDB市民ネットに期待する活動」としても、35%以上が“人材育成”を挙げている。

上記の傾向は「運営メンバーが40代を越えるNGO」で顕著であり、世代交代における困難が推測される。